

意見書（案）第42号

学校の断熱改修を早急に進めることを求める意見書

上記の意見書（案）を別紙のとおり提出する。

令和5年12月21日

三鷹市議会議長 伊藤俊明様

提出者	三鷹市議会議員	野村羊子
賛成者	〃	大城美幸

## 学校の断熱改修を早急に進めることを求める意見書

2023年は最高気温35度を超える酷暑日が続き、観測史上最も暑い夏となった。暑さのためプール授業が中止となることも度重なる日々であった。このような暑さの中で、エアコンが効かない教室が増えている。

学校のエアコン設置は、2018年夏に小学生が熱中症で死亡したことを受けて、補正予算822億円が組まれ急速に進んだ。2022年のエアコン設置率は95.7%となっており、約半数の24都府県で100%を達成している。ところが、日射の影響を受けやすい最上階や窓際では、エアコンをつけても35度以上にもなる教室がたくさんある。一方で、冬場に室温が17度に達しない教室も多く見られる。断熱性能が低いからである。学校の多くは、断熱の基準ができた1980年以前、あるいは現行基準の1999年以前に建設されている。つまり、古い学校は、教室の天井や壁に断熱材が入っておらず、窓もシングルガラスで、ほぼ無断熱なのである。

学校環境衛生基準には「教室の室温は18度以上28度以下が望ましい」とある。しかし、断熱のない、もしくは少ない教室では28度を超えたり、28度を確保するために非常に大きなエネルギーをかけている。それは、電気料金高騰の折、自治体の財政を圧迫することにもなっている。

2025年から全ての新築建築物には断熱が義務化される。校舎の建て替えにも断熱が必須となる。しかし、子どもたちの環境を改善するためには、建て替えを待たずに既存の校舎の断熱改修を早急に進めるべきである。天井や壁に断熱材を入れ、内窓を取り付け、デマンド換気を設置する断熱改修によって、夏は熱気、冬は寒気が室内に入るのを遮断することができる。エアコンの効きがとてよくなり、健康も守られ、快適になり学習にも集中できることは、既に実証済みである。断熱によって、電気代が数十%削減されることになり、エネルギーの無駄遣いを防ぎ、地球温暖化対策にも寄与する。

近年の暑さの中、既に全国の30以上もの学校で、生徒や保護者や地域の工務店が自分たちで断熱改修をする「断熱DIY」が行われている。資金は、クラウドファンディング（寄附）等で集め、実際の改修は、専門家の指導の下、ワークショップ形式で、生徒自身が行う事例が多い。断熱改修ワークショップは、気候変動の解決策についてなどを知る学習効果が得られ、重要なプロジェクトである。しかし、子どもたちの学習環境の整備、地球温暖化対策は、政府がきちんと予算をつけて進めるべき事業である。

2023年度、文科省は、学校施設環境改善交付金を活用しての体育館への空調設備設置には、併せて断熱性も確保するよう要請した。同様に、学校施設環境改善交付金を教室の断熱改修に使うことも可能だが、そのことが明記されておらず、補助率も低く使い勝手が悪いことなどから、断熱にはほとんど使われていない状況である。

よって、本市議会は、国会及び政府に対し、子どもたちの健康を守り、快適性や学習環境を向上させ、そして地球温暖化対策にも大きく貢献する学校断熱改修のために使い勝手の良い補助金を設置、拡充し、早急に全国の小中高校の全ての教室の断熱を進めることを求める。

上記、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

令和5年12月21日

三鷹市議会議長 伊藤俊明